

平成29年度 研究の成果と課題

今年度は、めあて作りとノート指導を研究の中心に据えて取り組んだ。

①めあて作り

- 単元のめあてを作ることが、児童の学習を主体的に取り組ませるためには有効であることがわかった。
- 「初発の感想から考える」「モデルを示す」「山場からめあてを考える」等、教材の特性に応じた様々な取り組みがなされ、単元のめあてを作ることができた。
- 教師が考えた単元のめあてでありきで、学習計画を立ててしまう傾向があった。教材の特性や、児童に身に付けさせたい力は何かを考え、それに沿った単元のめあてを作っていく必要がある。

②ノート指導

- どの学年も、読み取ったことをノートにまとめようとする意識が高まった。低学年では、ワークシート、中・高学年では、自分で工夫したノートを作ろうとしていた。
- ノートに自分の考えをまとめる際には、様々なまとめかたが考えられる。自分がまとめやすい方法や教材の特性に応じた方法などが考えられるが、実際には、サイドラインを引き、書き抜く方法が多い。多様な方法を習得するには、中学年までに、いろいろなまとめ方を経験させる必要がある。